Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

提供年月日：令和８年（2026 年）７月１日
所　属　名：滋賀県立美術館
担 当 者 名：池尻（広報担当）、山田創（学芸担当）
連　絡　先：077-543-2111
E－m a i l：museum@pref.shiga.lg.jp

丸木スマ展　73 歳からのアーティスト

2026 年 9 月 11 日（金）～11 月 23 日（月・祝）

丸木スマ《柿もぎ》1949 年　原爆の図丸木美術館蔵

スマおばあちゃんは、
美術界の超新人（スーパールーキー）になった。

１．　本展について

原爆を経験したスマさんは、73 歳で絵筆を執った――溢れ出す生命の絵

丸木スマ(1875-1956)は、広島県生まれ。1948 年、家族のすすめで、73 歳から絵を描き始めました。身近な自然や生き物を描き、1950 年以降、女流画家協会展や再興日本美術院展などに入選。専門的な美術教育を受けていない高齢の女性が、異例の画壇デビューを飾ったことは、当時の美術界に大きな衝撃を与えました。

華々しい快挙を成し遂げたスマですが、そのわずか数年前、70 歳のときに広島に原爆が投下され、スマは爆心地から 2.5 キロメートルで被爆しました。奇跡的に生き延びますが、その翌年には夫と死別するなど、過酷な人生の局面を迎えます。そして終戦から 3 年後、スマは絵筆をとり、81 歳で没するまでの間、ひたすらに描き続けたのです。

本展では、初期から晩年までの作品や関係資料を、約 130 点のボリュームで紹介します。自由奔放でユーモラス、ときに目がくらむほど色鮮やか――多くの失われた命を目の当たりにした彼女が描いた、草、花、生き物、そして人々の姿。生命力に溢れた絵の数々は、複雑な現代社会を生きる私たちへの力強いエールとなることでしょう。

2．　みどころ

その１

生命が躍動する丸木スマの絵で、
あなたもきっと元気になる。

丸木スマ《簪》1955 年　原爆の図丸木美術館蔵

日々の暮らしの中で親しんだ花、野菜、犬、猫や虫などを自由奔放な色彩と構図で描いたスマの作品。最晩年の大作《簪（かんざし）》をはじめとする、画面全体に生命力が満ちあふれる「曼荼羅（まんだら）」的とも評される圧巻の絵画は、観る人に強烈なエネルギーを与え、何歳からでも表現できる喜びと生きる元気を届けてくれます。

丸木スマ《田楽》1956 年　個人蔵

丸木スマ《おんどりめんどり》1955 年　原爆の図丸木美術館蔵

その２

スマを取り巻く人々や
同時代の美術界に注目し、
アーティスト・丸木スマ誕生の経緯に迫る！

丸木スマ《わたしとクマ》1951 年　原爆の図丸木美術館蔵

丸木俊《祖母子》1954 年　原爆の図丸木美術館

73 歳にして花開いた丸木スマの才能には、多くの人々が強い関心を寄せました。絵を描くきっかけを与え、画壇への出品を後押ししたのは、長男の丸木位里、その妻の丸木俊（※）という、ともに高名な画家であった息子夫婦です。

また、華々しいデビューを飾った後には、安田靫彦や金島桂華らの日本画家、さらには柳宗悦や式場隆三郎ら民藝運動の文化人たちがスマに熱い視線を送りました。

本展では、位里や俊による作品や家族の歩みを伝える写真をはじめ、同時代の文化人たちの評価や言説を物語る貴重な資料を、スマの作品とともに一挙紹介。多角的な視点から、稀代の「おばあちゃん画家」の評価がいかに形成されていったのか、その背景に迫ります。

※丸木俊は、当初旧姓の「赤松俊子」として活動。丸木位里との結婚後も同名義を用いたが、
スマの逝去を機に丸木姓を継いで「丸木俊子」と名乗る。その後、さらに「丸木俊（戸籍名が俊）」へと改めた。

その３

広島、原爆、夫の死――
スマの絵の背景にある、
凄惨な戦争体験

丸木スマ《ピカドン》制作年不詳　個人蔵

色鮮やかでユーモラスな作品の背景には、70 歳のときに広島の爆心地から約 2.5km の自宅で被爆し、その翌年に夫を亡くすという過酷な過去がありました。その凄惨な記憶を描いた作品にも注目し、2017 年に発見された《ピカドン》のように、スマが直接的に原爆を描いた数少ない作品を、スマの言葉とともに展示します。過酷な体験を経てなお、彼女が命の輝きを描き続けた意味を問い直します。

その４

子どもと一緒に楽しめる！
創作コーナーに子ども向けガイドも。

（当館で類似企画を実施した際のイメージ）

展示の最後には、体験型の創作ワークショップコーナー「絵ハ誰デモ描ケル」（コーナー名は丸木俊の著作に由来）を設置。鑑賞後の余韻のなかで、子どもから大人まで誰でも表現する楽しさを体感できます。

また、丸木スマの絵を楽しみながら巡ることができる、子ども向けガイドも用意しています。

さらに会期中には、託児サービス付きの記念講演会やギャラリートークに加え、「子ども向けギャラリートーク」も開催。美術館内にはキッズスペースもあります。家族みんなで、美術館を楽しんでいただけます。

３．　作家紹介

丸木スマ（1875-1956）

広島県生まれ。農作業や船宿業に従事し、家族の暮らしを支え続けたのち、1945 年に広島で被爆し、翌年夫を亡くす。1948 年、73 歳にして長男・丸木位里とその妻・丸木俊の勧めで初めて絵筆をとる。自然や生き物を独自の色彩と構図で描き、女流画家協会展や再興日本美術院展等で入選を重ね、70 代にして異例の画壇デビューを飾る。1956 年に 81 歳で没するまでのわずか 9 年ほどの間に、700 点以上もの作品を残し、精力的に創作を続けた。

没後もその作品は多くの人を魅了し続け、近年でも 2008 年に埼玉県立近代美術館、2011 年に原爆の図丸木美術館、2017 年に一宮市三岸節子記念美術館、2021 年にベルナール・ビュフェ美術館などで個展が開催されている。

4． 開催概要

展覧会名：丸木スマ展　73 歳からのアーティスト
会　　期：令和8年（2026 年）9 月 11 日（金）～11 月 23 日（月・祝）
　　※会期中、一部展示替えを行います。
休 館 日：毎週月曜日（ただし 9 月 21 日～23 日、10 月 12 日、11 月 23 日は開館、9 月 24 日と 10 月 13 日は休館）
開場時間：9:30～17:00（入場は 16:30 まで）
会　　場：滋賀県立美術館 展示室 3（〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1740-1）
主　　催：滋賀県立美術館、京都新聞
特別協力：原爆の図丸木美術館
観 覧 料：一般 1,200（1,000）円、高大生 800（600）円、小中生 600（450）円
　　※（ ）内は 20 名以上の団体料金
　　※企画展のチケットで展示室1・2で同時開催している常設展も無料で観覧可
　　※未就学児は無料
　　※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方とその介助者は無料
監　　修：岡村幸宣（原爆の図丸木美術館 専務理事・館長代理）
　　永井明生（キュレーター・美術研究者）
企　　画：山田創（滋賀県立美術館 学芸員）

5． 関連イベント

◆ 本展監修者による講演会①［事前申込不要/当日先着順／無料］
「みんなスマが好きだった」
スマの絵画がどのように社会に知られていったのか、歴史をたどり解説します。
講　師：岡村幸宣（原爆の図丸木美術館 専務理事・館長代理）
日　時：9 月 26 日（土）14:00～15:30
場　所：滋賀県立美術館　木のホール
定　員：100 名

◆ 本展監修者による講演会②［事前申込不要/当日先着順／無料］
「丸木スマの描く『いのち』」
スマ作品の特徴や魅力について、広島との関わりに焦点を当てながら紹介します。
講　師：永井明生（キュレーター・美術研究者）
場　所：滋賀県立美術館　木のホール
日　時：10 月 10 日（土）10:30～12:00 ※託児サービスあり
定　員：100 名

◆ ギャラリートーク［事前申込不要／当日先着順／要観覧チケット］
展示室を回りながら、本展担当学芸員がみどころを解説します。
日　時：9月 19 日（土）10:00～11:00 ※託児サービスあり
　　10 月 15 日（木）14:00～15:00
　　11 月 14 日（土）14:00～15:00
場　所：滋賀県立美術館　展示室3
定　員：各回 20 名程度

◆ 子ども向けギャラリートーク［事前申込不要／当日先着順／要観覧チケット］
学芸員とお話しながら展覧会を楽しみましょう。美術館が初めてのお子さんにもおすすめです。
日　時：9 月 19 日（土）14:00～15:00
　　11 月 7 日（土）10:00～11:00
場　所：滋賀県立美術館　展示室3
定　員：各回 30 名程度

6．小さなお子さんがいる、障害があるなど、何らかの理由で来館を迷っている方へ

滋賀県立美術館では、展示室でもしーんと静かにする必要はなく、おしゃべりしながら過ごしていただけます。また、目が見えない、見えづらいなどの理由でサポートや展示解説をご希望される場合や、その他、ご来館にあたっての不安をあらかじめお伝えいただいた際には、事前の情報提供や当日のサポートのご希望に、可能な範囲で対応します。

7．次回開催予定の展覧会（企画展）

展覧会名:「佐川晃司展（仮）」
会　　期:2027 年 1 月 15 日（金）～3 月 22 日（月・振休）
会　　場:滋賀県立美術館　展示室3

滋賀県内の里山にアトリエを構える佐川晃司（1955-）。菱形や三角形を基本的な構成単位とする彼の絵画を眺めていると、作品と身体とを包含する場が立ち現れてくるような感覚が訪れます。そんな佐川の作品は「見る」という行為の本質を探求するものとして高く評価され、国内の主要美術館で個展が着実に開催されてきました。本展は、混沌とした時代にこそ体験してほしい、心静まる場としてキュレーションされます。

8．プレス内覧会

(1)開催日:2026 年 9 月 10 日（木）
(2)会　場:滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町 1740－1）
(3)タイムスケジュール【予定】

①プレス限定の内覧会
13:30～14:00　受付
14:00～14:45　本展担当学芸員 山田創による展覧会場のご案内
14:45～15:15　説明会
・当館ディレクター 保坂健二朗のご挨拶
・質疑応答
※13:30～14:00 は、展覧会場を自由にご取材いただくことができます。

②招待者や関係者による内覧会
15:30～15:50　オープニングセレモニー （内容は調整中です）
15:50～17:00　内覧会（招待者らが展覧会場を自由にご観覧）
※自由にご取材いただくことができます。ただし、オープニングセレモニー中は、展覧会場に入場いただくことができませんので、あらかじめご容赦ください。

(4)参加申込み

参加を希望される方は、別添「プレス内覧会参加返信表」に必要事項をご記入の上、2026 年9月 10 日（木）までに、メールまたは FAX にてお知らせください。お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）をご利用ください（機材の持ち込みなどの都合上、美術館前までお車の乗り入れが必要な場合は、別途ご相談願います）。

(5)注意事項

突発的な事情により、内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいたご連絡先にお知らせします。

プレス内覧会参加返信表

申込期限：9/10（木）

滋賀県立美術館 行き

Fax　：077-543-2170
Email：museum@pref.shiga.lg.jp

＜必要事項＞

１）貴社名：

２）ご芳名：
※参加される方すべてのご芳名を記入してください。

３）参加人数：

４）ＴＥＬ：

５）E-mail：

６）通信欄：

広報用画像等申込書

滋賀県立美術館 行き
Fax：077-543-2170
E-mail：museum@pref.shiga.lg.jp

展覧会広報用素材として、作品画像を用意しています。ご希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、メールまたは FAX にてお申し込みください。なお、読者プレゼント用の招待券の提供をご希望の場合は、本申込書の記載欄に併せてご記入ください。

****

媒　体　名：

種　　別：テレビ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　WEB 媒体　その他

発売･放送予定日：

貴　社　名：

ご担当者名　：

E－mail：

T　E　L：

招待券希望枚数：　　枚（送付先住所：　　）

ご希望の画像にチェックをつけてください。

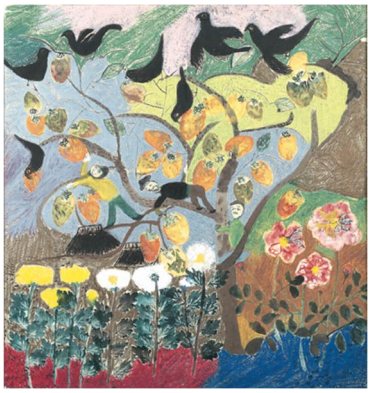
□	① 丸木スマ《簪》1955 年　原爆の図丸木美術館蔵
□	② 丸木スマ《柿もぎ》1949 年　原爆の図丸木美術館蔵
□	③ 丸木スマ《田楽》1956 年　個人蔵
□	④ 丸木スマ《おんどりめんどり》1955 年　原爆の図丸木美術館蔵
□	⑤ 丸木スマ 《わたしとクマ》1951 年　原爆の図丸木美術館蔵
□	⑥ 丸木スマ《ピカドン》制作年不詳　個人蔵
□	⑦ 丸木スマ肖像
□	⑧ 丸木スマ肖像
□	⑨ 滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）
□	⑩ 滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

****

［使用条件］
※広報用画像をご使用の際は、各画像のクレジットを明記してください。
※広報用画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねるなどはご遠慮ください。
※展覧会基本情報と広報用画像の使用方法の確認のため、お手数ですが、校正原稿を当館へお送りくださいますようお願いします（記事内容や報道原稿を確認する意図ではございませんので、念のため申し添えます）。
※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。
※広報用画像は本展の広報・報道のみのご利用となります。ご利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いします。

①

②



③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩